

# 18 石工 Architectural Stonemasonry



## ノミやツチなどを巧みに操りみかげ石を造形物に!

石工とは、ノミとツチ(カナヅチなど)を用いて、原石を手作業で加工する石職人のこと。現在では電動工具などによる加工が主流になりつつありますが、競技ではノミとツチを使った手加工で作り、機械も併用しながら作品を仕上げます。会場で支給される「みかげ石」を、課題図をもとに手作業中心で加工。2日間、計10時間で競います。石工の手技として注目したいのが、曲面やふちを仕上げる「小たたき仕上げ」と、力加減を調整しながら石の表面をたたき「びしゃん仕上げ」。叩き方ひとつで石の表情が変化するため、石工職人各々の手腕が試されます。



## 道具を駆使して石のかたまりから作品へと変化させる魔術師!

石工をする上では、さまざまな道具を上手に使い分けることが重要なポイント。ひとつの石製品をつくるために使用する道具は、ノミやツチ、セットウ、コヤスケ、ピシャン、タタキ、小ベラ、コンパス、差し金など、その種類は多岐にわたります。競技者が無心になってツチをふるい、たくさんの手工具を使って作業をすると、やがて「みかげ石」の原石がひとつの作品へと変化。石工職種の競技者のひたむきな姿と、石の造形にも注目です。

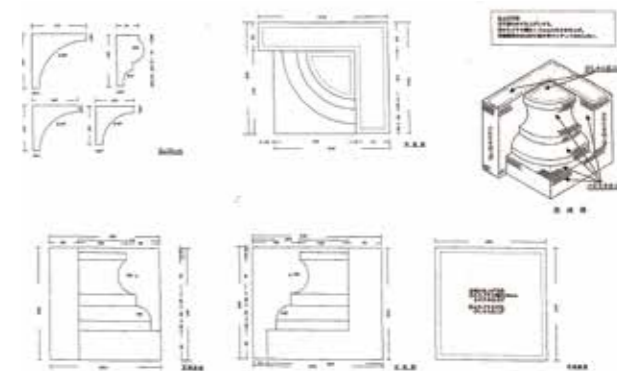


手作業で原石を加工!

## 競技について

競技時間 2日/10時間

あらかじめ寸法の決まった「みかげ石」を使用して、課題図にもとづき石製品を作製。ノミとツチを中心に手作業で進めます。墨付けをした原石に「コヤスケ」と「セットウ」という道具を用いて石を荒く削り、ノミでと小ベラで平面を調整。最後に「ピシャン」という道具で表面を叩いて滑らかにしていきます。全体の寸法の正確さや出来栄え、丁寧さなどが評価の対象になります。



参考:第58回技能五輪全国大会 課題図

## 競技職種と生活との関わり

石灯笼や水鉢、神社の石鳥居、狛犬や玉垣、石垣や階段、さらには墓石から表札まで、石材加工品に触れる機会は私たちの暮らしで少なくありません。石工職種の技能者は、墓石の刻字、設置工事、道路や河川、石垣などの復旧工事、庭園造成など、幅広い分野で石工の技能を生かして石材加工会社や石材店、建設会社などで仕事をしています。石工の仕事も機械化やコンピュータ化が進んでいますが、繊細な技術を要するような細工などには、職人の技が欠かせません。

## 2019年大会の成績

第57回技能五輪全国大会出場時点 / 2019年11月



(株)渡辺石材

渡邊 龍さん(岐阜県)



金賞  
渡邊 龍さん  
(株)渡辺石材

支えてくれる方々への感謝を忘れず、全力で頑張ってください!

2019年大会  
競技課題

